

【翻訳】

シャーキャチョクデン著
『如意[の]妙高[山]』和訳(Ⅱ)

原田 覺

筆者は嘗て表題の著作の前半三分二程を現代語訳して、公表した。それは下記の拙稿である。

「シャーキャチョクデン著『如意[の]妙高[山]』和訳(Ⅰ)」『[国士舘大学文学部]人文学会紀要』29号、同学会、東京、1996(平成8)年。

ここでは残りの後半三分一の現代語訳を提示することにする。同資料を現代語訳するに当たっての簡略な留意事項、即ち筆者の翻訳意図や略号等については、上記拙稿の前書を参照していただきたい。また拙稿の公表以降に公になった、同著者の著作の現代語訳として、以下のものがあるので、同じく参照していただきたい。

Komarovski Laroslav, *Three Texts on Madhyamaka (by Shakya Chokden)*, Library of Tibetan Works & Archives, Dharamsala, 2000.

拙稿「シャーキャチョクデン著『了義の海に入る十分な伺察の[大]船』考」『[木村清孝博士還暦記念論集]東アジア仏教——その成立と展開』(株)春秋社、東京、2002(平成14)年。

小林守「シャーキャ・チョクデンのツォンカパ中観説批判——『書簡・梵輪』和訳——」『[仏教文化学会十周年・北條賢三博士古希記念論文集]インド学諸思想とその周延』(楠)山喜房仏書林、東京、2004(平成16)年。

尚、本誌はオフセット印刷による出版であり、チベット語のローマ字転写にパーリ語用のフォントであるVriR0manCを借用した為に、不足の活字がある。ローマ字に付した下線は下点を意味し、mに付した下線のみは上点を意味する。また拙稿の末尾に科文の表を付記する。

<3 2 2 1 3>第三は | チャパPhya pa(1109~ 1169)が中観[の]自立

[派]dBu ma Rañ rgyudについて説示[したりお]聞[きすること]bśad ñan
を為す時に| 月[称]Zla baの足下の継承者[で]学者[たる]ジャヤアナタ
Dza ya a nantaと[いう]或る方がチベットBodにおいでになった| 『入中
観[論]の注解』dBu(5/6) *ma la hjug pañi hgrei bśad*(北京版No. 5271, cf.
No. 5262)をお造りになった| その時にチャパが直接に論争し了り且つ| タ
ントラrgyudからも月[称]の論書の語句[と]意味[の]両者に対して否定する
dgag pa本当に沢山の異門が有る論書をお造りになった| 否定することが
如何(6/7)様になったとしても立論者phyog sna maは確実に盲目[の]者な
のである| |

偉大なるゴクrNog翻訳師(ロデンシェラブ)の時代には| 帰謬派Thal
hgyur paの典籍は翻訳されていないma hgyurけれども| インドhPhags
yulで或いはチベットでそれ等の説法gsuñ hgnos/sgnosを聴聞することに
依ってから| 三相を備えた(13b7/14a1)因由(Cf. デルゲ版No. 4227)に依ること
なしに中観の意義が精通されることが有ると考えることについて| 所謂|
行[蘊]のこの集まりは無いと[いう]意に住さずに| | 顕現[と]意義そのもの
[である]或いはそれに対し正し[く]否定を述べる| | その人二人も正量の道
(1/2)からひどく彷徨い了ってから| | 邪見の憂い[たる]大荒野[の]内に確
実に墮す| | と帰謬派Thal hgyur baに対してそして| 瑜伽行派rNal
hbyor spyod pa paと| 中観[の]自立派Rañ rgyud paに対しても| 所謂
| 意義等が合理である力の充分な歓喜にhgar/dgar住する[ことに]向かう
[者]と| | 有(2/3)為[の]道[から]出離したことそのものを正量により確実
[に]把握する者[との]| | 両者は実有[とする]執着(無明)が尽きずに大魔
[の]前に行き了ってから| | 見解の鋭い牙により確りと捉えられた者である
のだ| | と否定を為さってから| 自[宗]の[考え]方は| 龍樹Klu sgrub
足下がkyi/kyis中観[の]注釈dBu ma rnam hgrei(Cf. 北京版No. 5229)を
(3/4)お造りになった明知に依ってから知る必要があると説示するのである| |

また後の時代[に]偉大なるジョナンパJo nañ pa(1292~ 1361)は| 実際
に軌範師[たる]月[称]の顕教乗の典籍により中観であると説示された者達は
| 有闘争rtsod ldan[時]の法であるのだから中観であり得ず(4/5)且つ|
中観はシャンバラパŚam bha la paの法の言葉から如何様であれ生起する
ことそのものであると仰せになり且つ| その[ことと関連して]間接的に自

立派の中観に対してもその言葉で仰せになること以外適切で無いのである | |

また後に偉大なるツォンカパTson̄ kha paは | 具吉祥[たる]月[称]の(5/6)典籍以外で中観であると共許である者達に全く清浄な見解は無く且つ | 顕密の一切の全く清浄な見解に於いて | 帰謬派のこの[考え]方のみが能遍に入ると説示したのである | |

<3 2 2 2>第二[たる]弥勒Byams paの法[と(6/7)それに]随順する者と共々がチベットに広まった[やり]方は | 昔法王の時代に | 般若[波羅]蜜の経と | 前[伝期]の弥勒[の]法Byams chos sñā maの典籍[と]注を翻訳した時そのものに於いて | 説示[したりお]聞[きすること]が一部分だけ生じたと共許であるけれども | [お]聞[きになり]説示[したこと]ñān bśadによって確(14a7/b1)定なされた[やり]方を後継者と共々が信解する様においになった方は | 所謂 | ここから北方[の]雪[の]近辺に | | 覚慧[を]具えるblo ldan或る方が出現するように成る[その方であって] | | 文字[と]音声そして解説付き[の本文]に対して | | 智力が障碍無き方thogs pa med paが出現する | | と[いう]授記を(1/2)得た大主宰者bDag ŋid chen po[たる]彼(ゴク翻訳師)が | 吉祥[なる]無死の居士と | 三十万の至尊方に | 般若[波羅]蜜の経を注疏と共々[に]詳細に聴聞し且つ弥勒の典籍を五部分にlña char-la/cha-la/char翻訳しそして | 注釈[の]広(2/3)略を結合する様にお造りになり且つ | 特に『現観莊嚴[論]』mñon par rtogs paḥi rgyan(北京版No. 5184)を聖者[たる]センSeñ [ゲサンボge bzañ po]の注(北京版No. 5189)と共々のものにla翻訳しそして | 注釈を詳細にお造りになり且つ | [お]聞[きになり]説示[したこと]の門によって善しく確定なされたgtan la phab/phabs |

彼の説示(3/4)の受命は主要な方として[善]知識[で]偉大なるデhBre[たる]シェラブバルŚes rab hbarに下った | この[善]知識は | 大翻訳[師]がチベットにお出でになっていない以前にも | [善]知識[たる]偉大なるムドゥラ(印契)Mu tra/dra方から瑜伽行rNal hbyor spyod paの典籍[であって]海(4/5)の如きものを聴聞した方なのである | | 彼が旧宅に般若[波羅]蜜[経]の講[経]院を建立した |

この[善]知識の御前でチャドウルワ=ツォンドゥバルBya ḥdul ba brTson ḥgrus hbar(1091~)が出家し了り且つ | 『阿毘[達磨集論]』mñon

pa(北京版No. 5550, cf. No. 5590~ 1)の法等も聴聞した| このチャドウル[ワ]は聴聞(5/6)が本当に広大な方であって| 袞婆者Nur smrig paからも『阿毘達磨[俱舍論]』Chos mñion pa(北京版No. 5590~ 1)を聴聞し且つ| ヨーガ[たる]瑜伽のタントラも沢山[であり]ギャrGya(1047~ 1131)の弟子[たる]マツォ=チャンチュブドジェrMa gtso Byañ chub rdo rjeから法[たる]律を本当に精通する様に学習した| トエルンパ=リンチェンニンポsTod luñ pa Rin(6/7) chen sñiñ po(1032~ 1116)からカーダム[派]bKah gdamsの法を聴聞した| スルプZul phuに講[経]の院を建立した| この方の御前でチャパが具足戒した| 『律撰頌』hDul sñion/sdom等[であって]聴聞したものは広大である|

[善]知識[たる]偉大なるデの般若[波羅]蜜の經と(14b7/15a1)論書の説示の受命は| アル=チャンチュブイエシエAr Byañ chub ye sesに下ることと成ったrab/bab tu byuñ| 彼がナムツェデングNam rtse ldenと| シュgShu[の]經堂に説示の規矩を建立した| 彼の弟子は持律者[たる]シウンヌツルティムgShon nu tshul(1/2) khirmsであり| 彼がチャンチュブムByañ chub hbumに| 彼がニエルシク=ジャンペドジェgÑal shig hJam pañi rdo rjeに説示し了り且つ| このニエルシクは成就grub paを証得し且つ| チャパの弟子方からも聴聞したことが広大であり| この方の弟子に波羅[蜜と正]量(因明)の注釈を著述した方が十八[人](2/3)現れたと共許である内から| ギャ祖師[たる]チンルパrGya ston/ston Phyiñ ru paがニェタン:デワチェンsÑe than bDe ba can[寺]に講[経]院を建立した(1205年)| またサンリンダクパ=ダルマツルティムZañ riñs grags pa Dar ma tshul khrimがトプsKhro phu[寺]に講[経]院を建立した| 彼の弟子筋[たる]正]量の丈夫として共許であるソェナムグンポbSod nams(3/4) mgon poからプトンBu ston(1290~ 1364)一切智者が聴聞した| 彼と彼の弟子[たる]沢山の受教者luñ [nod pa po] mañ poに大宝[たる]ヤクパgYag pa(1350~ 1414)が聴聞した|

またニエルシクの弟子[で]至尊[たる]ナムカーペルNam mkhah dpalと[いう]方がニヤントェÑañ stodで説示[したりお]聞[きすること]を為さった弟子[であって](4/5)学者[たる]オェセルグンポHod zer mgon poが現れた| 彼がサンブ:リンメgSañ phu Gliñ smad[寺]の管長を三十二年為

さった弟子に| シャーキャシウンヌŚākya gshon nuと| チャンチュブシウンヌByañ chub gshon nu[の]二方がおいでになった[内]から| チャン[チュブ]シウン[ヌ]が新しい議論bsgros/sgros/sgrogを開始した|(5/6)シャーキャシウン[ヌ]は軌範師の古い風格hgrosを把握し了ってから管長[を為さり]そして| ツェル:チュコルリンTshal Chos hkhor gliñの講[経]院を建立した| 彼の弟子[たる]ロトエツウンメBlo gros mtshuñs medと共許である方は| 大乘の全ての法に精通し且つ沢山に(6/7)聴聞したことが広大な方であって| 彼に主[たる]ランチュンドジェRañ byuñ rdo rje(1284~ 1339)が沢山に聴聞し且つ| 彼(ロトエツウンメ)がまた彼自身(ランチュンドジェ)に沢山に聴聞した|

カラグパKha rag pa(1186~ 1271)の言論[を]把握[する方]sgros hdzinであって|四柱[たる]ナグリグパNag hrig paと共許である方に法主[たる]デシンシェクパDe bshin gśegs pa(1340~ 1383)が聴聞した| またカラグパの(15a7/b1)言論[を]把握[する方たる]| ソクブシ=リンチェンサンポSog dpon Rin chen bzañ poに主[たる]トンワドゥンデンmThoñ ba don ldanが聴聞した|

またゴク大翻訳師の全ての經典の受命は| 偉大なるドルンパGro luñ paに有るけれども| 御管長[たる]シャン=ツェポン=チュキラマShañ Tshe pon Chos kyi bla ma(~ 1241)に現れた|(1/2) 彼からニャンデンパ=チュウキエシエÑañ bran pa Chos kyi ye śesと| チャパ=チュウキセンゲChos kyi señ geが出家した| チウキエシエが学問[と]修行等[の]菩薩の経蔵について説示[したりお]聞[きすること]は長久であり且つ注釈は沢山である[ように]為さった| チウキセンゲは大(2/3)翻訳[師]が安樂にお逝きになった(1109)年[に]ご生誕になり且つ| 学問[と]頭陀を殊勝[に]お為しになってから| 管長を十八年お為しになった間に弟子[たる]八大獅子[と]| 三具般若[と]| 四(三?)尊者[たる]御子息[と]| 三得成就者[の]方々が(3/4)おいでになったと共許である内から| 具般若[の]一方はホデンパ=ダルマセンIHo bran pa Dar ma señであって| チャパの御前でご自分[の]歳十七で出家した| まさにその年に瑜伽行の法[であって]海の如きを聴聞して| まさにその聴聞したことを備忘録に記した『大注』Tika chenが現在の間に有るまさにこれを説示し了ってから| デンバグネチュンDan bag gnas

chuñ[寺]と| ゲンラムツルチェンNan lam tshul chen[寺]に講[経]院を
建立した| この方に対してホパHo pa一切智者と言う|

大獅子の内から重複した[あり方]でマアbrtsegs kyis ni波羅[蜜と正]量
そして|(5/6) 弥勒[の]法と中観の説示[のやり]方を把握しり且つ| 管
長を摂受した方が現れた| ドウシャ=ソェナムセンゲBru śa bSod nams
señ geは| ナルタンsNar than[寺]に講[経]院を建立した| ツァンナグ
パ=ツォンドウセンゲgTsañ nag pa brTson hgrus señ geは全ての經典に
精通したけれどもご事業は大きく現れなかった[と]言う|(6/7) パルプワ=
ロトセンゲsPar phu ba Blo gros señ geは全ての經典に精通し且つ|
後[に]偉大なるパグドウPhag gru(1110~ 1170)に聴聞してから三種のドー
ハ(歌謡)Do haの注をお造りになった| |チャバの波羅[蜜と正]量の説示
[のやり]方は| 主としてドルンパから現れたものであって| 後の時代[に]
もアル(15b7/16a1)方面と| 彼(アル)以外[の]方面[の]二であると共許なの
である| |

三(四?)尊者[たる]御子息から| サSa尊者[たる]御子息[であって]最上
であると共許である方は| この[善]知識が十一歳程で依止しり且つ| 波
羅[蜜と正]量が主導した大小乗の経(1/2)典を沢山に聴聞した| 説示の[や
り]方を把握するお考えをマア広大にお造りになった|

得成就者[たる]三人であると共許の方に於いて| シャン=ツェルパShan
Tshal pa(1123~ 1193)は直接[の]弟子である[と]ないの二つの説示が現れ
り且つ| ウセdBu seと共許である主[たる]ドェスムケンパDus gsum
mkhyen pa(1110~ 1193)は| 波羅[蜜と正]量と(2/3)弥勒[の]法を詳細に
聴聞しり且つ| お名前は| 大翻訳師の直接[の]弟子であって| チョッ
キラマmChog gi bla maから出家した時(1125年)| チュキラマと[いう]と
お付けしたけれども| 『フレンデブテル』Hu len deb gter/therにドジェオ
ェセルrDo rje hod zerと[いうこと]が出ているのである| |

また弥勒の法[の]前[伝期の]三著(3/4)は昔法王の時代に翻訳するけれど
も| 『最上要義[宝性論]』rGyud bla ma(北京版No. 5525~ 6)と| 『法と法
性[を]分別[する論]』Chos dan chos ñid rnam par hbyed pa(北京版
No. 5523~ 4, 5529)はインドでも| 或る長い期間に現前しなかったことから
| 後の時代[に]学者[たる]弥勒尊Byams pa mgon poと[いう]一方が|

煉瓦(4/5)の或る塔から取り出し了って流布するように為したものであるのだ | |と軌範師方は説示する上la | その時期はゴク大翻訳[師]の少しばかり前な丈なのである | |

以前の他の上人の仰せから | 法そのものを新たに得た弥勒(5/6)のお名前を持つ彼は | 勝者[の]御子息[たる]偉大なるマイトリパMai tri paであるのである上 | それ等の典籍は大印契の論書であって | 婆羅門[たる]リンチェンドジェRin chen rdo rjeの甥御[たる]サツジャナSad dza naと[いう]方がマイトリパMe/Mai tri paに聴聞し且つ | ゴク大翻訳[師]がサツジャナご自身から聴聞し(6/7)且つ | 注と共々なる翻訳をお造りになったのである | |

それはまた大翻訳[師]は | 弥勒の四つの法の所説示の意義は未了義[で]そして | 『最上要義[宝性論]』rGyud blaの所説示の意義は了の義であって | 善逝の蔵の名を具えるそれなのである | その識(16a7/b1)別はまた | 一切の法の自性[が]清浄[である]rañ bshin rnam dag部分[であって] | 一切の所知に対して能遍に属するそれそのものであるのである上 | それはまた無いと否定すること[であって]虚空の如き或るものであって | 所謂 | ここに於いて排除されるべき何ものも無い | |と[いうこと]等(1/2)によって教示されたそれなのであるとご承認になった |

またヤルルンパ=ツェンカボチェYar lun pa bTsan kha bo cheと共許である方が | ご自分[の]歳が六十を過ぎた時[に]弥勒の法を聴聞したことから得た了義は | 仏陀から有情の間に遍満する自性[が] (2/3)清浄[である]智慧[であって] | 自性の光明それそのものが善逝の蔵であると仰せになったことであるのであるのだと | 彼の方から相承する方々は説示する上 | このことに対して昔の時代に弥勒[の]法を相性の[考え]方に説示しそして | 修習[の]考え[方] (3/4)に説示する差別があると共許であるけれども | 両者である如くに[は]また矛盾は無く | [何故ならば]性相[を]執着[すること]を排除する時は前者の如くが甚深である上 | 功德の所依と為ることに於いては後者の如くが必要であることによるのである | |

それと同様に弥勒[の]法のものの変[と] (4/5)円成[実性]yons grubの二つの識別が現れ了って | [何故ならば]所取[と]能取が不可得である無いと否定することについてそして | 最初から成就した無二の智慧について説

示することなのである| そ[の]両者はまた矛盾しないと『中辺[分別論]』
dBu mthaḥ(北京版No. 5522, 5528)から仰せになり了っ(5/6)て| [何故な
 らば]所謂| 補特伽羅とマア諸法の| |事物が無いこれに於いて空性 $stoṅ$
 $pa \quad \tilde{n}id$ であり| |両[者]は事物が無い(無実の)事物が有ること(有実)であ
 り| |事物は空 $stoṅ \quad pa$ の性相なのである| |と仰せになったことによるの
 である| |主[たる]ランチュンドジェの御面前からも| |内[たる]三タント
 $raṅ \quad rgyud \quad [sde?]$ (6/7) $gsum$ と『法と法性[を]分別[する論]』の『注釈』
 $rNam \quad bśad$ のこのお考えのみの如くが現れたのである| |後のチベット
 [人]が後[伝期]の弥勒[の]法の了義の識別は| |所取[と]能取が他の物体
 $rdzas$ によって空である空性以外[に]無い(16b7/17a1)のであると言うのは|
 その法の了義を識別する[やり]方に於いて本当に遮られるべきであるのであ
 る| |

<3 2 2 3>第三[たる密]咒の中観がチベットにおいでになった[やり]方
 に三あって| <3 2 2 3 1>前[伝期の]翻訳と| <3 2 2 3 2>中[伝期の]
 翻訳と| <3 2 2 3 3>後[伝期の]翻訳の[やり]方(1/2)なのである|

<3 2 2 3 1>最初は| 軌範師[で]変化のお身体[たる]パドマジュンネ
 $Padma \quad \underline{h}byuṅ \quad gnas$ がチベットにおいでになったその時に| 作 Bya [と]
 行 $sPyod$ [と]瑜伽 $rNal \quad \underline{h}byor$ のタントラは| 典籍が如何様であれ[その]通
 り[に]翻訳し終わっていた上| 無上瑜伽 $rNal \quad \underline{h}byor \quad bla \quad na \quad med \quad pa$ のタ
 ントラのお考えは| マハーヨーガ $Ma \quad hā \quad yo \quad ga$ と| アヌヨーガ $A \quad nu \quad yo$
 ga と|(2/3) アティヨーガ $A \quad ti \quad yo \quad ga$ [の]三に別れ了って| お口から仰せ
 になったその時| 主として第三の瑜伽そのものを実践することにより成就
 を得た瑜伽師が沢山においでになった上| アティヨーガは大円満 $rDzogs$
 $pa \quad chen \quad po$ であり| 軌範師ご自身がお造りになった(3/4)口決[たる]『見
 解の数珠』 $Ita \quad bahi \quad phren \quad ba$ から現れたものなのである| |と仰せになっ
 上| 九次第の乗の設定 $rnam \quad bshag/gshag$ をお造りになった方々に於
 いては| アティヨーガのこの見解は無上瑜伽の不共の中観の見解そのもの
 であると説示する必要があるのである| |

<3 2 2 3 2>第二[たる](4/5)中[伝期]に翻訳するもの等に於いても|
 昔翻訳しない沢山のタントラ部等を翻訳なさる方は| 大翻訳師[たる]リン
 チェンサンポ $Rin \quad chen \quad bzaṅ \quad po$ (958~ 1055)であって| 彼は全てのタント

ラ部のお考えを〔儀軌〕軌範の門から明らかに為さり且つ法と非(5/6)法を詳細に区分する論書をお造りになった| 彼の弟子[たる]ハラマ=イエシェウ | Ha bla ma Ye ses hodと| 彼の家系の方[で]陛下[たる]シワウ Shi ba hod方は| 昔イン DrGya garに起源したタントラとして共許であるもの等に対する破斥の沢山の文書等をお造りになった(6/7)のである| |

彼の後に大翻訳師[たる]ドク hBrog(993~ 1074)[と]| ゴェ hGos[と]| マル Mar(1012~ 1097)[の]三方が| 『〔勝〕楽[タントラ]』 bDe(北京版 No. 16)[と]| 『呼金剛タントラ』 dGyes(北京版 No. 10)[と]| 『秘密集会[タントラ]』 gSaṅi hdus pa(北京版 No. 81)などの乗の法の精華からまた最高[であって]本当に精華と成ったもの等を翻訳しり且つ[お]聞[きになり]説示[したこと]と実践の門(17a7/b1)から広まり且つ増したその時の口決[たる]道果 lam hbrasと| 五次第と| 六法等から現れる義は| 中観[の]帰[謬]派と| 自[立]派等に於いて共許でない義[であって]無上瑜伽の大中観 dBu ma chen poなのである| |

<3 2 2 3 3>第三[たる](1/2)後[伝期の]翻訳は| 『時の輪の総括のタントラ』 Dus kyi hkhor lohi bsdus pa hi rgyud(北京版 No. 4)[であって]| 偉大な注[たる]『無垢の光』 Dri ma med pa hi hod(北京版 No. 2064)である| 六支の瑜伽の口決と共なるもの等は| 波羅蜜[の]乗の全ての中観派に共許でない大中観であつて(2/3)で| この詳細に設定されたもの rnam bshag/gshag paは瑜伽の大自在[に]精通し且つ成就を得た方々のお心にお在りになること確かなのである| |

<3 2 3>(欠)。

<3 3>第三[たる]否定[と]成就 sgrubを少しく致しりまして末尾を総括すべきことに三あつて| <3 3 1>中観の識別[の](3/4)局部に於いて法を捨離する弊害が有ると教示する[ことと]| <3 3 2>その最も広大な識別を他者に対して為したことにより経言と矛盾すると教示する[ことと]| <3 3 3>後[に]おいでになった方[の]中観の識別は自[宗]に共許である経言と一致しないことなのである| |

<3 3 1>最初は| 後(4/5)日有雪の国(チベット)に於いて宗義を述べる四者の頂点の中観と| その学説は| [帰]謬[派と]自[立]派として共許であるもの等から| 他に識別できず且つ| その中観も一切の法が諦により空で

ある[所の]無いと(5/6)否定することのみなのであると説示する| そ[の]言葉に於いて表明するこれは| 第三輪のお言葉[であって]お考えを注釈する論書と共なるもの等に対して事実師dNos por smra baそのものであるとして誹謗したことにより法を捨離する業を積んだことは| 尊(6/7)者[たる]ミパンパMa/Mi pham paご自身が授記したことなのであるであって| 所謂| それ故に勝者が最も精通することはこの世間に有るので[は]なくて| |と[いう]等が教示したことそのものなのである| |聖者[たる]無著Thogs medが典籍[の]注等に於いて了義の(17b7/18a1)中観を教示しなかったならば| 勝者ご自身が未了[義と]了[義]を区別すると授記したことと矛盾するのである| |

彼が『最上要義[宝性論]注』*rGyud blaḥi hgrēl pa*(Cf. 北京版No. 5526)を帰謬として注釈したのであると言うけれども| その注は月称Zla ba grags paの注釈[するやり]方と一致(1/2)しないと誰か賢明な人が見たけれども現前[量]により成就したことによって言う丈に終わるので| [密]咒の中観を無いと否定することそのものであるとして説示したならば| 具最上全種rnam kun mchog ldanの空性を了解していないことと| それ以外[に]何ものとして識(2/3)別したとしても経言により害されることと| 樂[と]空[が]双運[すること]を了解していないことと| 知と所知が一であるお身体等を如何様に説示するのか| それ等を世俗諦として説示することは| [密]咒[の]考え[方]の勝義の諦に対して誹謗した(3/4)丈に終わらず| 『時の輪』*Dus kyi hkhōr lol*に於ける| みやまとべら(いしやだおし)の木nim paḥi śinから葡萄そして| 毒の液から甘露そして| 桑(紅?)の木tshaṅs paḥi śinから蓮華はご誕生にならない喩えにより| 無いと否定するその空性は| 大樂と双運する空(4/5)性であるのであることを明らかに否定したのである| |

<332>第二は| 第三輪[であって]お考え[を]注釈[するもの]と共なるものから現れる勝義の諦の識別は| 所取[と]能取が他の物体によって空である空性より前に跳び出さなかった(5/6)ので| 事実師そのものなのであると言うけれども| それ等の学説はその如き空性の識別が有るので[は]ないのだが| 然らば如何なるものがあるのか[と]言うならば| 外界の対象などの所取[たる]尽所有の(あらゆる)遍[計所]執[性]kun btagsと| そこに顕現する(6/7)識など[の]能取[たる]尽所有の遍[計所]執[性]は| 自己の実体

ño boにより空性であると確定し了ってから| その残余lhag mar/ma lus paの自性[が]清浄[である]智慧のみに対して勝義の諦であると仰せになったのである| |

それを諦[として]成就[したもの](18a7/b1)であると認めることは中観であり得ないのである[と]思うならば| 貴方がまた諦[として]空[であるもの]を勝義であると承認したのでそれ(中観)であり得なくて| [何故ならば]勝義の諦であると成就し了[たこと]から諦であると成就しなかった[こととの]差別は| 昔の学説[であって]正理と共なる[と]共でない如何なるもの(1/2)からも現れなかったのである| |

若しもそれ等の学説から現れた了義を尊者[たる]弥勒が中観であると説示したけれども| 清弁Legs Idan hbyedと| 月称Zla gragsの中観の[考え]方でないのだと説示し了ったことその両者は強引[過ぎる]のである[と]思うならばマア| 然(2/3)らばそれ等の説示に対しても無著[の]足下が経を引用し了ってから| 損減の見解であると説示し了り且つ| インド人の口決の典籍と| 経部等に於いて実体性ño bo ñidは無いと述べることにより説示するその空性に対して| 物質bems/bem poの空(3/4)性と| 断chad paの空性と| 直接thal byuñの空性と[いう]| 了義の識別[のやり]方[と]方面[の]両者について| 正理[を]具える典籍等に於いて否定を部分[的に]夫々[に]為さる[ことが]有ることによるならば甚深のご精神(お考えと意義)等に対して分別し了らず(4/5)にお互いに一[方]が他方を否定出来ることで[は]ないのだ| |

<3 3 3>第三は| 有雪[国]に後[に]おいでになった方が云う| 空性と云われることのこの甚深の了義は月称の典籍以外に有ることはないのであって| [何故ならば]所(5/6)謂| これ以外にこの法は| |如何様に[も]無いもの[であって]それ[が]そうである[通り]に| |ここに現[れる]考え[方]はまた他には| |無いと学者方は正しくお造りになるべし| |と仰せになったことによるのである| |それはまた有法が正理[によつて]成就した上に| 所遮が自己(6/7)の性相により空なのである| |それ以外に石女の子の如き諦[として]無[いこと]に於いて修習すべきことによつて| 障碍の如何なるものであれ種子を捨離し得ると説示し且つ| その拠り所に| 月[称]が[唯]識派rNam rig paを否定した典籍等を(18b7/19a1)清[弁]を否定する典籍に結び

付けさせることそして| 空性を確定なさる時[に]所遮を別途に識別しなかったならば断の辺に墮するのであると説示することそして| [密]咒の樂[と]空が双運することもその如きの(1/2)空性であって有境[たる]大樂により通達されること[と]について説示する必要がある| [何故ならば]喩えるならば悲閑[たる]大悲心により空性が現前に通達されることに於いて| 空性は悲心の精髓[と]共なるものとして説示する必要がある[その]通りである| と仰せになるのである| |

そ[の]言葉と言うそ[の](2/3)一切は自[宗]が何かに対して根拠と為る全ての典籍と一致なくて| [何故ならば]中観の典籍からは| 戲論の四辺を排除する必要があると説示した上| 貴方は| 勝義として有る辺と| 世俗として無い(3/4)辺[の]両者を排除すること以外を説示しなかった| 典籍には| 両者でない辺を排除すること[と]| 両者である辺が破綻したことに出席すること| 無[い]辺が破綻したこと[と]有[る]辺が破綻したことに観待(相対)するものなど[の]相互を捨離した一[方]の対立するものが破綻したときもう一方も(4/5)破綻すると仰せになった上| 貴方は| 実際[に]矛盾[する]両者のうち一[方]を否定したときもう一方が意義により成就したことを支柱そのものと為すことそして| それは典籍と矛盾することであるけれども典籍では縁起の理解は相対[して]成就[した]ことltos grubであること| そして(5/6) そのrehi/dehi理解は| 所謂| 相互が対象に依存した成就是| |成就でないことそのものであると勝者が仰せになった| |と成就しなかったことそのものについて説示したが故にである[こと]そして| この[考え]方に於いてであるのだ[という]ことを否定した場合であるのであること等が成就したならば| 所遮を否定した(6/7)場合に他の法を放棄することにhben/hphen par[帰]謬することそして| 一切の戲論[の]辺を否定せずに排除したが故になのである| |

貴方は中観の因由の所遮が自己の性相により成就したこと以外を説示しないその時[に]断の辺と無(19a7/b1)い辺を否定出来ないことによるならば| 空性を空性[と]仰せになる必要が無いことに帰謬することそして| [声]聞[と]独[覚]の空性が通達される[やり]方より優れたものを大乘[の]聖者に承認出来ないことにより| [声]聞[と]独[覚]に於いて法の無(1/2)我が通達される[やり]方を円満することが有ると明らかにしたことbsal/gsal baそし

て| 補特伽羅と唯我等が作る十二丈夫等を正量[により]成就[したもの]と承認したことによって外道と相応することそして| 大小の乗の阿毘達磨に於いて|(2/3) 補特伽羅の我と無我の清浄な識別が無いならば外[道と]内[道(仏教)]の弁別が明白でなくなることに[帰]謬することそして| 実状 gnas tshulが諦に入った時[に]因由[と]法[と]意義[の]三が正量によって成就したならば| 自立[派]を否定出来ないと明らかにしたこと bsal/gsal ba(3/4)そして| 清[弁]の典籍に於いて中観の意義が教示されていなかったならば| 所謂| 清[弁]が善いことを何か説示しそして dan| |と月[称]が経言に引用したことは合理でないと排除したことそして| この場合の空性が通達される現前[量]と比(4/5)[量]が有るならば| 『入[菩薩]行』sPyod hjug(北京版No. 5272)に於いて| 勝義は覚慧の行境で[は]ない| |と[仰せになったこと]そして| 『入[中論]注』hJug hgre(北京版No. 5263)等に引用した経から勝義のその諦は行相が一切智者そのものの対境からも出離すると仰せになった(5/6)ことそして| アティ[一]シャA ti śaが| 現前[量と]比[量]は必要が無い| |と[いい]そして| 有分別[と]無分別の| |二知によって通達されないと| |軌範師[で]学者[たる]バブヤBha byaは仰せになった| |と[いったこと]等と矛盾することのみに終(6/7)わってしまわず| 正理によっても損じられて| 性質ldog pa[たる]遺余gshan selを直接の所称量gshal byaと為る現前[量]は『[量]評釈』rNam hgre(北京版No. 5709, 5717a)をお造りになった正理によって破綻したのである| |

他にも有法が正量[により]成就した上に所遮が正量によって成就しなかった(19b7/20a1)ことを否定した空性のこの説示[したやり]方は| 般[若]経Ser mdoの実際[的]教示と矛盾するのみに終わってしまわないけれど| 月[称]ご自身の論書から| 所謂| 何の故にであれその自性がそれで| |あるが故に目は(1/2)目によって空である| |と[いう]等[の]一切の有法に結合し了ってから実際に仰せになったことそして| 正理によっても瓶の如きものが正量によって成就した意義が崩壊した| 所遮が正量によって成就しなかったことによって空であるこの空性は| 他空gshan(2/3) stoñと述べる典籍から現れる空性の内からも下等なものであって| [何故ならば]清浄でない有法が[依]他起[性]gshan dbañである上に所遮[たる]性相が完全に断じられた遍[計所]執[性]によって空について識別したが故にである| この

[考え]方(3/4)に於いて一切の所知を自空^{rañ ston}と説示したそれは| 所謂| 若しもこれ等が全て空であるならば| |と[いう]等の場合から説示した論争を捨離することが出来ないのである[と]思うならば| 出来ないことで[は]ないのであつて| [何故ならば]それについては| 所謂| 諸仏(4/5)陀が法を教示したことは| |二諦に最も依止する| |と[いう]等によって回答した^{len/lan thebs pa}が故にである| 如何様に[と]いうならば| 一般に二諦を各々に区分した時| 勝義として無いことそのものは強引[過ぎる]けれども| 事物を述べる^{dños smra ba}その論(5/6)争は| 勝義を因由に配置し了ってから世俗を破斥させる論争であるので| 世俗として有るが故にである| と[いう]ことによって回答したのである| |そ[の]言葉で| 無数[の]こと[等]等を教示した方々は| |勝の義として忍耐[するの]で[は]ないのだ| |(6/7)世俗としては慈愛の| |それ等の等流(同類因)が忍受されることをご希望になる| |と仰せになったのである|| ||

喏呵| 何[の]お身体であれ五身の主宰者[であつて]等覚者| |それを仰せになる仰せになる自在者[たる]妙音(文殊)[菩薩]| |貴方はお心が悲心である君主[たる]観(20a7/b1)音[菩薩]| |威徳[たる]力量の自在者[たる]この衆生の依怙主| |安樂の源(大自在天)[の]頂飾^{gtsug brgyan/rgyan}[たる]自己[の]住所を捨てないけれども| |広大な虚空に於いて障碍無く流動すること(情世間)により^{rgyu bas}| |お名前も白昼と為る^{ñin mor byed pa}(太陽[の])如所有(真実)[たる]| |カルマパ^{Karma pa}と共許である何方かがご命令で(1/2)誘い了ってから| |この『中観の現れた[やり]方[たる]如意[の]妙高[山]』^{dBu mañi byuñ tshul Yid bshin lhun po}を| |彼岸が自慢である大山により屈服することなく且つ| |内の智慧[たる]海が散乱し了らずに| |遍入[天][Khyab] ^{hjyug}の十種の彼の喜劇[役]者が| |如理[に]秤るうえ疲労することが無くなれかし| |(2/3)業力が自慢である幻化師が彼であるのだ| |白昼[と]為[る]方(太陽)を毒[の]湖の底から取出したその如くに| |仏教[たる]白昼と為る(太陽)明らかな光彩は| |羅睺[の]凶暴な口から離脱するように成れかし| |それからその利樂の大道に| |全ての衆(3/4)生を如理に導く車は| |曲がった道に決してまた趣かず| |十[方]から全く勝利するその住処に回向すべし| |

と[いう]『中観の現れた[やり]方[を]完全に説示した論[たる]| 如意[の]

妙高[山]』 *dBu maḥi byuñ tshul rnam par bśad paḥi gtam* | *Yid bshin lhun po* と言う論書は | (4/5) 吉祥なるシャーキャチョクデン=ディメレクペイロ *Śākya mchog ldan Dri med legs paḥi blo* が | ツァン:イェル *gTsañ g-Yas ru* の講[経]の院[たる] | セルドックチェン *gSer mdog can* で親しく著述し了ってから | 三時[の]総ての勝者のお仕事[の]根力が | [僧]衆[の]海[のごとき]の資糧と共[に] | ラサ:トゥルナン *Ra sa ḥPhrul snañ* (5/6) の大寺院で法の座[たる]獅子の御座に両のお足を任せするよう
に座が愛着する悲心の両の御目により親しく遍満されている[方]の御前そのものに奉げた筆受者はコン *Koñ* 祖師[たる] *チュキゲンツェン* ペルサンボ *Chos kyi rgyal mtshan dpal bzañ po* なのである | | (6/7) 吉祥 *śu bham* | |

[科文の表]

表題 (fol. 1a1; col. 209 1. 1)

帰敬偈 (fol. 1b1~ 5; col. 210 11. 1~ 5)

主題の提示 (fol. 1b5~ 2a2; col. 210 1. 5~ 211 1. 2)

<1> *dBu maḥi mtshan ñid* | (fol. 2a2, 3; col. 211 11. 2, 3)

<2> *mtshon byaḥi sgra bśad pa* | (fol. 2a2, 3~ 4a5; col. 211 11. 2, 3~ 215 1. 5)

<2 1> *mtḥaḥi ños ḥdzin gañ yin pa* (fol. 2a3, 3~ 3b4; col. 211 11. 3, 3~ 214 1. 4)

<2 1 1> *spyi* (3/4) *tsam nas [ños ḥdzin]* (fol. 2a3~ 4, 4~ 3a2; col. 211 11. 3~ 4, 4~ 213 1. 2)

<2 1 2> *skabs su bab pa [ḥi ños ḥdzin]* (fol. 2a4, 3a2~ b2; col. 211 1. 4, 213 1. 2~ 214 1. 2)

<2 1 2 1> *rNal ḥbyor spyod paḥi [sel tshul]* (fol. 3a2, 3~ 6; col. 213 11. 2, 3~ 6)

<2 1 2 2> *Ño bo ñid med par smra ba [ḥi sel tshul]* (fol. 3a2, 6~ b2; col. 213 11. 2, 6~ 214 1. 2)

<2 1 3> *de la rtsod pa spañ ba [rnams]* (fol. 2a4, 3b2~ 4; col. 211 1. 4, 214 1. 2~ 4)

<2 2>lam gyi [ños hdzin gañ yin pa](foll.2a3, 3b4~ 4a1; coll.211 1.3, 214 1.4~ 215 1.1)

<2 3>de ltar ños zin pas dBu ma ñid du grub pa(foll.2a3, 4a1~ 5; coll.211 1.3, 215 11.1~ 5)

<3>mtshan gshi(2/3)[hi/rab-tu] dbye ba(foll.2a2~ 3, 4a5~ 20a7; coll.211 11.2~ 3, 215 1.5~ 247 1.7)

<3 1>brjod bya don gyi(5/6) dBu mahi dbye ba mdor bstan|(foll. 4a5~ 6, 6~ 5a5; coll.215 11.5~ 6, 6~ 217 1.5)

<3 1 1>ño bo ños bzun|(fol.4a6, 7~ b3; coll.215 11.6, 7~ 216 1.3)

<3 1 2>de luñ khuñs gañ nas byuñ ba|(fol.4a6, b3~ 5; coll.215 1.6, 216 11.3~ 5)

<3 1 3>gshan gyi hdod pa rgya chuñ bar bstan pa(foll.4a7, b5~ 5a5; coll.215 1.7, 216 1.5~ 217 1.5)

<3 2>rjod-byed-tshig-gi/siñ-rtahi srol hbyed ji ltar byuñ bas/tshul rgyas par bśad|(foll.4a6, 5a5~ 17b3; coll.215 1.6, 217 1.5~ 242 1.3)

<3 2 1>hPhags yul du dBu mahi bstan hchos/bcos brtsams pa|(foll.5a6, 6~ 12b1; coll.217 11.6, 6~ 232 1.1)

<3 2 1 1>dpal Sa ra has lam srol phyed bahi tshul gyis(6/7) mdor bstan|(foll.5a6~ 7, 7~ 6a5; coll.217 11.6~ 7, 7~ 219 1.5)

<3 2 1 2>siñ rtahi srol chen gñis kyis phyed tshul rgyas par bśad|(foll.5a7, 6a5~ 10a5; coll.217 1.7, 219 1.5~ 227 1.5)

<3 2 1 2 1>Klu sgrub rjes hbrañ dañ bcas pas phyed bahi srol(foll. 6a5, 6~ 8b5; coll.219 11.5, 6~ 224 1.5)

<3 2 1 2 2>[hPhags yul du] Thogs med mched dañ-bcas-pas-phyed bahi/kyi srol [byon tshul](foll.6a5, 8b5~ 10a1; coll.219 1.5, 224 1.5~ 227 1.1)

<3 2 1 2 3>de gñis mthun par phyed bahi srol; srol hbyed gñis po mi hgal bar hchad pahi tshul(foll.6a5, 10a1~ 5; coll.219 1.5, 227 11.1~ 5)

<3 2 1 3>sñags kyid Bu ma logs su hchad-pa/bkral-tshul med mi ruñ du bstan pa(foll.5a7, 10a5~ 12b1; coll.217 1.7, 227 1.5~ 232

1.1)

<3 2 1 3 1>mdor bstan pa(fol.10a6, 6~ b6; coll.227 11.6, 6~ 228 1.6)

<3 2 1 3 2>cuñ zad rgyas par bśad pa(foll.10a6, 10b6~ 11a4; coll.227 1.6, 228 1.6~ 229 1.4)

<3 2 1 3 3>rtsod pa spañ ba(foll.10a6, 11a4~ 12b1; coll.227 1.6, 229 1.4~ 232 1.1)

<3 2 2>de ñid Gañs can gyi yul du ji ltar byon pa|(fol.5a6, 12b1~ 17b3; coll.217 1.6, 232 1.1~ 242 1.3)

<3 2 2 1>Klu sgrub yab sras kyi dBu ma byon tshul(foll.12b1, 1~ 14a6; coll.232 11.1, 1~ 235 1.6)

<3 2 2 1 1>Rañ rgyud kyi gshuñ dar tshul; dBu ma Rañ rgyud śar gsum gyi bśad pa mdo tsam(fol.12b1, 2~ 7; col.232 11.1, 2~ 7)

<3 2 2 1 2>Thal hgyur gyi [gshuñ dar tshul]; Thal hgyur bar grags pañi dBu ma Bod du byon tshul(foll.12b2, 7~ 13b5; coll.232 11.2, 7~ 234 1.5)

<3 2 2 1 3>gñis po de la ħdor len ji ltar byuñ ba(foll.12b2, 13b5~ 14a6; coll.232 1.2, 234 1.5~ 235 1.6)

<3 2 2 2>Byams chos rjes ħbrañ gi dBu ma byon tshul; Byams pañi chos(6/7) rjes ħbrañ dañ bcas pa Bod du dar tshul (fol.12b1, 14a6~ 17a1; coll.232 1.1, 235 1.6~ 241 1.1)

<3 2 2 3>sñags kyi dBu ma [Bod du] byon [pañi] tshul(foll.12b1, 17a1~ b3; coll.232 1.1, 241 1.1~ 242 1.3)

<3 2 2 3 1>sña hgyur [gyi tshul] (fol.17a1, 2~ 4; col.241 11.1, 2~ 4)

<3 2 2 3 2>bar [du] hgyur [ba dag] [gyi tshul] (fol.17a1, 4~ b1; coll.241 11.1, 4~ 242 1.1)

<3 2 2 3 3>phyis hgyur gyi tshul(fol.17a1, b1~ 3; coll.241 1.1, 242 11.1~ 3)

<3 2 3>dBu ma phyogs re bar shen pañi ñes dmigs bstan pa(fol.5a6, 欠; col.217 1.6, 欠)

<3 3>[de dag gi skabs su] dgag sgrub cuñ zad bgyis pas-don/

te-mjug bsdu ba(foll.4a6, 17b3~ 20a7; coll.215 1.6, 242 1.3~ 247 1.7)

<3 3 1>dBu maḥi ṅos ḥdzin(3/4) rgya chuñ na chos spoñ gi ñes dmigs yod par bstan|(foll.17b3~ 4, 4~ 18a5; coll.242 11.3~ 4, 4~ 243 1.5)

<3 3 2>rgya che śos deḥi ṅos ḥdzin gshan du byas pas luñ dañ ḥgal bar bstan|(foll.17b4, 18a5~ b5; coll.242 1.4, 243 1.5~ 244 1.5)

<3 3 3>phyis byon dBu maḥi ṅos ḥdzin rañ la grags paḥi luñ dañ ma mthun pa(foll.17b4, 18a5~ 20a7; coll.242 1.4, 244 1.5~ 247 1.7)

結頌(fol.20a7~ b4; coll.247 1.7~ 248 1.4)

奥書(fol.20b4~ 6; col.248 1.4~ 6)

陀羅尼(fol.20b7; col.248 1.7)